

仕様変更のご案内

本機の仕様変更により、取扱説明書の下記ページの内容が変更となります。

設定の保存・ローディング機能が追加されました

仕様の変更により本機の設定を保存する機能が追加されました。本機を一時的に他の場所で使用する場合などに便利です。設定は3つまで保存できます。

設定を保存する

本体キーによる設定

1 初期画面から「メニュー」→「設定」→「設定の保存と変更」→「設定の保存」を選ぶ。

2 3つの設定エリアの中から保存するエリアを選ぶ。

「WEB 設定ページ」による設定

1 「WEB 設定ページ」で「設定の保存」を選ぶ。

2 3つの設定エリアの中から保存するエリアを選ぶ。

ご注意

- 既に設定が保存されているエリアを選んだ場合は、保存されている設定を上書きします。
- アドレス帳と通話履歴、設定されたパスワードは保存されません。
- 「出荷状態に戻す」(設置・設定編 49ページ)を使用して本機の設定を工場出荷状態に戻した場合、保存した設定も消去されます。

保存した設定を使用する

本体キーによる設定

1 初期画面から「メニュー」→「設定」→「設定の保存と変更」→「設定の変更」を選ぶ。

2 3つの設定エリアの中から呼び出す設定を選ぶ。

現在の設定に選択した設定を上書きし、本機は再起動します。

「WEB 設定ページ」による設定

1 「WEB 設定ページ」で「設定の変更」を選ぶ。

2 3つの設定エリアの中から呼び出すエリアを選ぶ。

現在の設定に選択した設定を上書きし、本機は再起動します。

電話回線機能の設定

(取扱説明書：設置・設定編 22 ページ)

仕様の変更により、設定の内容が日本と中国の電話回線機能の切り替えから、日本とそれ以外の国の電話回線機能の切り替えに変更されました。この変更に伴い、「動作モード3」が追加されました。

- 動作モード3**：「動作モード1」、「動作モード2」では内線電話などが正常に着信できない場合に設定してください。電話会社から送出されるナンバーディスプレイ用信号(CAR 信号)などの受信をチェックせずに、着信音を鳴らします。

※ ヒント

「電話機能を使用する国の設定」が「日本」以外に設定されている場合は、「動作モード1」と「動作モード2」を切り替えても、本機の動作は変わりません。

電話エコー抑止機能について

仕様の変更により、通話開始時のエコー抑止制御のオン/オフ切り替えが可能になりました。

- **使用する**（初期設定値）：エコー抑止機能をオンにします。
- **使用しない**：エコー抑止機能をオフにします。

本体キーによる設定

「メニュー」→「設定」→「電話設定」→「エコー抑止」を選ぶ。

「WEB 設定ページ」による設定

「WEB 設定ページ」で「電話設定」→「エコー抑止」を選ぶ。

電話機能を使用する国の設定

（取扱説明書：設置・設定編 22 ページ）

仕様の変更により、本機を使用する国を設定するメニューの名称が「国番号」から「地域番号」に変更されました。また、選択できる地域に以下が追加されました。

オーストラリア、香港・マカオ、韓国、台湾

手動発信機能が追加されました

仕様の変更により、キーを押してからアドレスを入力できるようになりました。通話中に他の拠点へ発信する場合などに便利です。

1 初期画面または通話中画面が表示されているときに、キーを押す。

「番号入力」画面が表示され、ダイヤルトーンが出力されます。

2 数字キーを押して、アドレスを入力する。

呼び出しを開始します。

本体キーによる設定

「メニュー」→「設定」→「環境設定」→「手動発信」→「使用する」を選ぶ。

「WEB 設定ページ」による設定

「WEB 設定ページ」で「環境設定」→「手動発信」→「使用する」を選ぶ。

※ヒント

- 「WEB 設定ページ」の「番号入力タイムアウト時間」で、アドレス入力を終了してから呼び出しを開始するまでの時間（1～10秒）を設定できます。初期設定値は3秒です。
- 初期画面からは、アドレス入力→キーを押して呼び出しを開始することもできます。

オーディオミキサー機能（ミックス通話）について

本機は「IP+アナログ電話+オーディオ」を同時に接続して、各回線のミックス通話をすることができます。IP電話会議に外出先から携帯電話で参加したり、Web会議に電話から音声だけで参加したりすることができます。

自動切断機能が追加されました

仕様変更により、電話回線により接続していた拠点が通話を終了した場合に、ビジートーンを検出し自動で電話回線を切断する機能が追加されました。電話回線を切断するまで出力されていた、ビジートーンが自動的に止まり便利です。

ご注意

ビジートーンは国や地域、交換機やPBXによって仕様が異なるため、検出できない場合もあります。

- **使用する**：ビジートーン検出後、5秒で自動切断します。また、ミックス通話を行っている場合は、ビジートーン検出後、本機からIP/オーディオ側にビジートーンを送出するのを停止します。
- **使用しない**（初期設定値）：自動切断しません。また、ミックス通話を行っている場合は、本機からIP/オーディオ側にビジートーンを送出し続けます。

※ヒント

「使用する」を選択した場合は、「WEB 設定ページ」で設定した「ビジートーン判定時間」と「ビジートーンスピーカー出力」の値で動作します。

本体キーによる設定

「メニュー」→「設定」→「電話設定」→「自動切断」を選ぶ。

「WEB 設定ページ」による設定

「WEB 設定ページ」で「電話設定」→「自動切断」を選ぶ。

ビジートーンの判定時間を設定する

標準（初期設定値）：標準設定です。

短：ビジートーンを判定するまでの時間が「標準」より短くなります。

ご注意

「短」を選択すると検出の精度が低下し、誤判定により電話回線からの音声が一時的に途切れる場合があります。

「WEB 設定ページ」による設定

「WEB 設定ページ」で「電話設定」→「自動切断」を選び、「ビジートーン判定時間」から設定する。

ビジートーンのスピーカー出力を設定する

する（初期設定値）：自動切断されるまで、本機のスピーカーからビジートーンを出力します。

しない：ビジートーン検出後、本機のスピーカーからビジートーンの出力を停止します。

ご注意

「しない」を選択するとスピーカーからビジートーンが出力されないため、電話回線の接続状態が分からなくなります。

「WEB 設定ページ」による設定

「WEB 設定ページ」で「電話設定」→「自動切断」を選び、「ビジートーンスピーカー出力」から設定する。

SIP サーバー使用時の初期画面について

（取扱説明書：設置・設定編 32 ページ）

仕様の変更により、設定した SIP アドレスを初期画面で確認できるようになりました。初期画面で **☎**-キーを押すと、数秒間 IP アドレスと SIP アドレスが表示されます。

IP ネットワークを経由した通話中のトーン信号送出機能が追加されました

（取扱説明書：基本操作編 11 ページ）

仕様の変更により、IP ネットワークを経由した通話中にトーン信号を送出する機能が追加されました。音声自動応答サービスなど、通話中に番号を追加入力することが必要となるサービスを利用する際に便利です。

トーン信号を送出する

1 IP ネットワークを経由した通話中に **☎**-キーを押す。

番号の追加入力画面が表示されます。

※ヒント

複数拠点との通話中の場合は「番号追加入力選択」画面が表示されます。トーン信号を送出したい通話先を選び、**☎**-キーを押します。

2 #キー、*キー、または数字キーを押して番号を入力する。

キーを押すごとに対応するトーン信号が送出されます。

3 入力が終了したら、**☎**-キーを押す。

通話中の画面に戻ります。

ご注意

トーン信号送出の操作中は呼び出しを着信することはできません。

QoS に対応しました

仕様の変更により、QoS（Quality of Service）の設定が追加されました。ToS（Type of Service）または CoS（Class of Service）の優先度を設定することができます。CoS を使用する場合には VLAN-ID も設定することができます。

「WEB 設定ページ」による設定

「Web 設定ページ」で「QoS」を選ぶ。

G.729a 方式に対応しました

（取扱説明書：設置・設定編 25 ページ）

仕様の変更により、音声のエンコード方式に G.729a 方式が新たに追加されました。

本体キーによる設定

「メニュー」→「設定」→「サウンド設定」→「CODEC」→「G.729」を選ぶ。

「WEB 設定ページ」による設定

「WEB 設定ページ」で「CODEC」→「G.729」を選ぶ。

RTP パケット送出間隔の設定

（取扱説明書：設置・設定編 25 ページ）

仕様の変更により、RTP（Real-time Transport Protocol）パケット送出間隔の設定機能が追加されました。

- **G.711 拡張**：20msec（初期設定値）、40msec
- **G.711**：20msec（初期設定値）、40msec
- **G.726-32**：20msec（初期設定値）、40msec
- **G.729**：10msec、20msec、40msec（初期設定値）、60msec

「WEB 設定ページ」による設定

「Web 設定ページ」で「CODEC」を選び、使用するエンコード方式と「RTP パケット長」を設定する。

設定可能な SIP アドレスについて

(取扱説明書：設置・設定編 32 ページ)

仕様の変更により、#、*を含む SIP アドレスが設定可能になりました。また、設定可能な SIP アドレスの文字数がユーザー ID 部・ドメイン部それぞれ 32 文字までに変更されました。32 文字を超えるユーザー ID 部・ドメイン部を持つ SIP アドレスが設定されている場合は、次回登録を修正する際に文字数の制限が適用されます。

SIP の登録有効期限・セッション有効期限の設定

(取扱説明書：設置・設定編 32 ページ)

仕様の変更により、SIP の登録有効期限とセッション有効期限が設定可能になりました。

「WEB 設定ページ」による設定

「Web 設定ページ」で「SIP サーバー」を選び、「登録有効期限」と「セッション有効期限」を設定する。

NEC モードが追加されました

仕様の変更により、NEC モードが追加されました。NEC SV8000/SV7000 と本機を組み合わせる場合に、通話中の保留・転送に対応しました。

NEC モードを設定する

「WEB 設定ページ」による設定

1 「WEB 設定ページ」で「SIP」を選ぶ。

2 「SIP サーバー」で「使用する」を選び、「SIPサーバータイプ」の「NEC」チェックボックスにチェックを入れる。

保留転送機能を使用する

1 通話中に \mathbb{R} キーを押して保留状態にする。

「保留」画面が表示されます。もう一度 \mathbb{R} キーを押すと、保留状態が解除されます。

2 通話履歴やオンラインから転送先を選び、 \mathbb{R} キーを押す。または転送先のアドレスを直接入力し、 \mathbb{R} キーを押す。

転送先を呼び出します。

で注意

- ・ 保留転送機能を使用しているときは電話回線を経由した通話や複数拠点間の通話ができません。
- ・ 音声は「スピーカーモード」の設定に関わらずモノラルで出力されます。

ヒント

- ・ アドレスを直接入力した場合は、入力を終了してから一定時間操作をしないことによって呼び出しを開始することもできます。「WEB 設定ページ」の「番号入力タイムアウト時間」で、アドレス入力を終了してから呼び出しを開始するまでの時間（1～10 秒）を設定できます。初期設定値は 3 秒です。
- ・ 転送先を呼び出しているときに、 \mathbb{R} キーを押すとスクリーン転送（転送先が応答する前に転送）になり、 \mathbb{R} キーを押すと呼び出しをキャンセルします。